

# 社会貢献への使命感が 病と対峙する力に

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医院  
院長補佐・抗加齢センター長

闘病しながらベトナムの支援活動に取り組むNさんのケース

患者氏名	N・J 様	年齢	75歳	性別	女性	現病歴	糖尿病 単純網膜症
------	-------	----	-----	----	----	-----	-----------

私がNさんの主治医を務めるようになってから、かれこれ20年になります。その間、ずっと飲み薬でコントロールされており、とくに目立った変化はありません。

一般に糖尿病の方は、既往歴が10年を超えるとさまざまな合併症が出てくるものです。しかし、Nさんは高齢にもかかわらず軽度の単純網膜症が見られる程度です。血糖値も150〜180mg/dL、ヘモグロビンA1cは7.5%前後で安定しています。

もちろんご自身の先生の賜だと思いますが、そのモチベーションとなっているのが社会貢献活動でした。50代になった頃からある団体を通じてベトナムの子どもたちの教育支援をはじめとした多方面での活動を行ってこられたのです。

現地へはもう何度も渡航されていて、また近々行く予定だそうです。糖尿病の方の海外旅行にはリスクが伴いますが、Nさんの場合不安よりも使命感の方が勝っているようです。というより、むしろ

その使命感が、病と対峙していく力になっているように見受けられます。

病気を理由にやめたくない。そんな気持ちで、自身の健康管理につながっているのでしょう。

歳をとったからといって終活に向かうのではなく、何かを始めるときも一つの有意義な生き方です。私も見習いたいと思います。

